

3 各種表彰事例の紹介

- 農林水産祭むらづくり部門（全国表彰）
- 鹿児島県共生・協働の農村づくり運動表彰

平成29年度 農林水産祭むらづくり部門 天皇杯

あむろ 阿室校区活性化対策委員会(宇検村) —結いのところで みんなでむらおこし—



地域ぐるみの海岸清掃



子ども達もいっしょにたんかんの収穫体験

地区の概要

阿室校区のある鹿児島県大島郡宇検村は、鹿児島市から南へ430kmの奄美大島の西南部に位置し、険しい連峰によって近隣市町村から隔てられ、90%以上を深い山林が占めている。

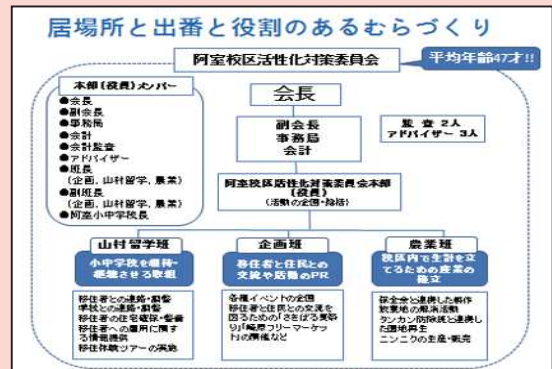
四方を海と山に囲まれ、道路が整備される昭和40年代まで、「船」での移動が一般的であったことから、地元では、集落を「シマ」と呼んでいる。

緑深い山々を背にエメラルドグリーンを臨む阿室校区は、^{へだ あむろ やどん}平田、阿室、屋鈍の3集落220人ほどからなり、“結い”の精神のもと、限られた耕地でタンカンやサトウキビなどを生産している。

むらづくりの推進体制

平成21年度に各集落の代表等で設立し、委員会本部(役員会)で、活動の方向性を検討し、山村留学、企画、農業の3班が具体的に計画、実行に移している。

検討事項は、各集落区長が集落の役員会を通じて周知・徹底され、相互の密接な連携のもと校区全体の活動として取り組まれている。



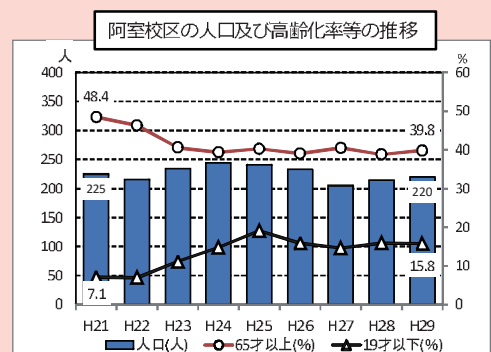
主なむらづくりの取組

□ 親子山村留学による学校の存続

人口減少が進む中、学校の存続が危ぶまれたため、平成22年から家族で阿室校区に住んでもらう「親子山村留学」に取り組んだ。

受入れの際は、移住者の住宅の確保や保護者の就業先の情報を提供するとともに、移住者に居場所と出番と役割をつくり、地元住民との交流も積極的に行われている。

平成22年意向の8年間で35世帯79人の移住者を受け入れ、地域が賑やかになった。



□ **新たな担い手, I・Uターン者を中心とした地域農業・水産業の振興**

増加するI・Uターン者を地域産業の担い手として位置づけ、地域ぐるみで就農を支援しようと、耕作放棄地を再生し、I・Uターン者に農地を集積している。

再生した農地では、亜熱帯気候を生かしたパッションフルーツ、フィンガーライム等を新たに導入している。

□ **労働力の補完によるタンカン産地の再生**

タンカン共同防除班を結成し、校区内の防除作業を請け負う「タンカン共同防除班」を設立し、労働力の補完体制を整えることにより高齢化が進む産地の再生に取り組んでいる。

□ **在来ニンニクなどの復活による特産品開発**

途絶えかけていた在来ニンニクの生産を復活させ、I・Uターン者の女性を中心にパスタソースなどの加工品の開発を手がけている。

□ **地域資源を守り育てる共同活動**

豊かな自然資源を守ろうと、地域ぐるみで河川や海岸清掃など環境整備を進めている。

■ **評価のポイント**

極めて条件不利な地にも関わらず、親子山村留学を通して、多くのI・Uターン者を受け入れ、タンカンなどの生産や子育て、伝統文化の継承などに地域ぐるみで取り組まれていることが高く評価された。



夏祭りで移住者と地元住民との交流を促進



合同会社「あおぼとカンパニー」による
島ニンニクの加工



I・Uターン者も一緒に伝統文化を継承



みんなで天皇杯の受賞を祝う

やど り はら
宿利原地区公民館(錦江町)
－ 田舎でも楽しい地域づくり－



大根やぐらライトアップイベントによる都市農村交流



鹿児島大学のサークルによる夏休みの社会学習
(仙巖園)

■ 地区の概要

錦江町は県内で高齢化率第2位(43.9%)で、中でも宿利原地区は特に高齢化率が高い地域であり(人口505人, 高齢化率51.5%), 少子高齢化が急速に進んでいる。

宿利原地区は、錦江町市街地から北東へ10km、標高200mの高台に位置し、広い高台には開かれた農地が多い地域で、10の自治会で地区が構成され、桜島と開聞岳が一望できる風光明媚な場所である。

平成20年3月に地区内の中学校が閉校し、小学校も現在全校生徒11名となっているが、地区と学校が連携し、運動会や校区一周駅伝大会、大根やぐらライトアップイベントなど地域活動には、地域一体となって取り組んでいる。

■ むらづくりの推進体制

中学校の閉校をきっかけに、平成21年に旧宿利原中学校の跡地活用検討委員会を設置し、廃校活用を含め、むらづくりの目標や地区の将来像を各自治会長やPTA、農業委員や郷土芸能保存会などと検討を重ね、将来のビジョンとして3つの基本理念を定めた。

これに基づき作成した活動計画のもと、地区全体の活性化へ取り組んでいる。



鹿児島純心女子短期大学との交流による漬け物のたれの開発

■ 主なむらづくりの取組

3つの基本理念に基づき作成した活動計画のもと、地区全体の活性化に取り組んでいる。

□ 「地域の学校として学び交流の場づくり」

公民館講座を開設するなど、学校跡地を拠点とした学び・交流の場づくりに取り組んでいる。

□ 「地域に自信と誇りを持ち、魅力ある楽しい活動」

県内でも有数の「干し大根」の産地であることをPRし、大根生産への自信と誇りにつなげるため、平成22年から「大根やぐらライトアップイベント」を開催、毎年約1,400人が訪れている。

□ 「地域の魅力を発信し、持続力ある活動」

鹿児島純心女子短期大学と連携し、地域に伝わる「干し大根漬け」の味を再現し、商品化している。

また、婦人会の年齢制限を撤廃し、幅広く参加を呼びかけ、新たに女性部を結成するなど、幅広い年齢層での取り組みにより、高齢者の食の技術が若い世代に伝承され、組織の活性化につながっている。



旧中学校を活用した公民館講座
(男の料理教室)



鹿大生のサークルによる夏休みの
寺子屋塾(宿題合宿)



年齢制限のない女性部の発足



ライトアップイベントでの特産品販売

■ 表彰理由・講評

地域特産品の干し大根を活用したイベントの開催や新たな特産品の開発など、NPO法人や大学生らの若い活力などの様々な主体と連携した活動を展開しており、「共生・協働」のモデル的な取り組みである。

農業生産が盛んな地域でのむらづくり活動で、特に中学校の閉校をきっかけに話し合いを進め、公民館独自の講座の開設など広範囲にわたるむらづくりに向けた活動などに取り組みされており、今後の活動の拡大も期待できる。

4 共生・協働の農村づくり運動の展開に向けた実践・研修の概要

かごしま農村創生塾

地域資源を有効に活用して、「ひとづくり」や「しごとづくり」など地域の活性化を牽引するむらづくりリーダーを育成

中山間地域等直接支払集落協定や水土里サークル活動などの実践者，NPO法人など県内の7地区の16人を対象にした講演やワークショップ，現地視察などを実施（年3回）

第1回 農村再生～ムラに人を呼び戻す戦略～（8月24日～25日）

島根県持続可能な地域社会研究所の藤山浩所長が，中山間地で人口を増加させ，地域全体の所得を確保する取組を紹介した。

（主な内容）

- ・ 暮らしに必要なものを自分たちの地域で生み出し，地域内で経済を循環させる。
- ・ 移住者を呼び込むため，複数の仕事を組み合わせ，世帯全体で所得を得る確保する仕組みをつくる。



地域で人を呼び込む体制を検討



人口予想プログラムによる人口分析



7地区の体制図を相互に発表

- ・ 人口予想プログラムを活用し，参加者が居住する校区の人口を分析。
- ・ 地域を活性化させるために，公民館や小学校跡地を活用し，子どもを対象にした寺子屋や壮年部によるカフェ開設，サロンの運営による地域の拠点づくりを行うことなど，グループワークで具体的な取組を検討し，相互に発表。

第2回 地域資源の維持・継承，都市農村交流（11月24日）



横石社長による講演

○講演1 「地域の魅力を活かす仕組みづくり」

講師 徳島県上勝町(株)いろどり代表取締役社長 横石知二氏
農村の地域資源を活かした，地域の方々の居場所と出番と役割づくり

○講演2 「農家民泊とグリーンツーリズムの可能性を探る」

講師 (株)パソナソーシャルイノベーションチーム 副部長 加藤遼氏
農家民泊におけるおもてなしホストの育成と海外予約サイト「Airbnb」との共同事例の取組

第3回

ムラを支える「ひと」をつくる（1月22日～1月23日）

講演：高齢者を地域ぐるみで支える共生・協働のむらづくり

講師：高山地区公民館 館長 立和名徳文氏
支援員 住吉 伸一氏

【現地研修】

- ・ 棚田等を活用した都市農村交流活動
- ・ 宿泊・交流の拠点となり小学校跡地の活用
- ・ NPOがんばろう高山による農産物集出荷及び買い物支援の取組



尾木場の棚田を守り続ける
91才の野上さん



学校跡地にピザ釜を設置し、
子ども達の受入等に活用



直売所と連携し、野菜の集出荷や
買い物支援を行う



地域の方々と生産した野菜は、NPOが
集荷し、直売所へ出荷

- ・ 棚田やこんにゃくなど各集落の特徴を活かした体験プログラムが楽しめる「高山ふるさと秋まつり」は、毎年地域内外から1,200人以上が訪れている。
- ・ 平成4年に閉校した小学校を、宿泊が可能な交流センターとして整備し、年間5千人が宿泊。サークルの合宿で利用した鹿児島大学生が、「高山ふるさと秋まつり」への支援を行うなど、交流を深めている。
- ・ 集落全員が参加するNPO法人が、地区内の高齢農家の野菜を集荷し、市内の直売所へ出荷する仕組みをつくるとともに、高齢者の外出支援にも取り組んでいる。

講演「住民が創る持続可能な地域運営組織とその担い手づくり」

講師 山形県NPO法人きらりよしじまネットワーク事務局長 高橋 由和氏

（主な講演内容）

- ・ 山形県川西町では、ワークショップを通じて、住民のニーズや課題を吸い上げ、住民がアイデアを出しあっている。
- ・ 「地域づくりは経営」である。事業を継続するためには、法人化は必須である。
- ・ 住民がマーケティングやマネジメントなどの知識を身につけ、取組をPDCAサイクルで検証することが必要である。
- ・ 地域の所得を増やすと地域の教育・福祉が連動して取組が進むようになる。
- ・ 高齢者の協力による学童保育の運営や地域のコンビニに地元農産物や加工品のコーナーを設置。
- ・ 加工グループによる高齢者の配食サービスや食事会の運営を実施している。



NPOの立ち上げ地域を
牽引する高橋氏の講演



県内7地区からの受講者

鹿児島大学と連携したむらづくり活動

共生・協働の農村づくり運動の一環として、平成29年度、南さつま市と肝付町の2地区において、大学と連携したむらづくり活動に取り組んでいます。

南さつま市清原校区

調査内容

- 地域特産物の生産状況
- 地域特産物の清原校区での適応性等の調査・分析

鹿児島大学担当

農学部農業生産科学科
坂上 潤一 教授
志水 勝好 教授



地域のほ場でトウガラシを試験的に生産

肝付町上北地区

調査内容

- 住民の営農及び生活の実態調査
- 地域資源の掘りおこし
- 農産物加工品の市場性評価 など

鹿児島大学担当

農学部農業経営経済学講座
イ ジェヒョン
李 哉泫 准教授



自分達の住む地域課題の検討

提案会

南さつま市清原校区むらづくり活動の活性化に関わる調査報告会（2月5日）

主な提案内容

- 「オカワカメ」は競合産地もなく、地域に適した作物、産地としての将来性は高い。
- 「長命草」は周年での露地生産が可能。飲食店では、生食での料理が好評。
- 「ねたろうすいか」を安定的に生産するために、トンネル栽培を推奨。
- トウガラシ実証圃において、収量、病害虫等の調査結果から、地域に適した品種を特定。



トウガラシを活用した加工品の提案



清原校区での新たな特産品を提案



今後の取組について意見交換

提案会

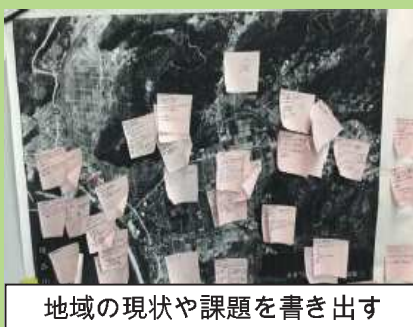
肝付町上北地区における地域活性化に資する コミュニティビジネスモデルづくり (2月20日)

調査内容

- アンケート及び聞き取りによる地域農業及び住民生活に関する実態把握
- 地域の特産品開発に向けた検討(ライスミルクの試飲等)
- 上北地区のプロモーションビデオ製作



住民への聞き取り調査



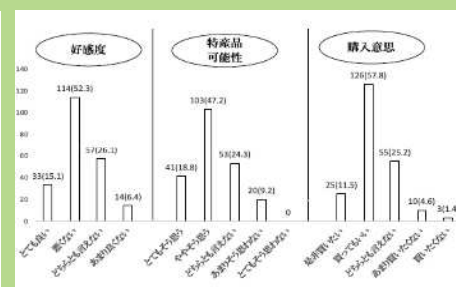
地域の現状や課題を書き出す



ライスミルク試飲

調査結果

- 住民調査結果からは、農地の貸付のみの世帯が7割。集落営農に対しては、約6割が賛成。
- 交流人口は少なくないが、滞在時間が短く、地域経済にうまく活かされていない。
- ライスミルクの消費者嗜好調査では、美味しい、飲みやすい、美容によさそうなど比較的好評価。



ライスミルク試飲

提案内容

- 上北むらづくり委員会の法人化により、水稻の生産加工などを行う水田利活用とイベント及び特産品販売を行う交流促進部門を一体的に推進する。
- 花の地上絵や景観作物による交流人口の増。
- 辺塚だいだいなどの地域特産品を使ったライスミルクを製造し、イベントやダイエット食品として販売。

地域の魅力マップづくり



地域住民が選んだ ご自慢の地域資源

伝統文化	お寺式を村で協力 扶願りの復活、集落の昔話	1	せせらぎの里 トンネルを出ると桜、ロケット	1
食の自慢	タイタイ つわの産物、タケノコ 手作りあんつゆ、ドレッシング 手作り味噌 味噌、タイタイ	2	景色 自然 自然溢れる風景 水が綺麗、自然豊か 川の利用、ひまわり	1
有形文化	村岳森 山神 馬込観音 数神様祭り	1	国見岳 国見山に銀 自然溢れる風景 水が綺麗、自然豊か 川の利用、ひまわり 大文字板 朝日のさえずり	1

住民と地域資源を発掘

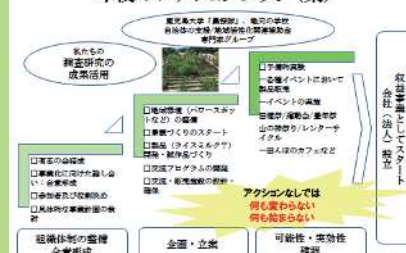
辺塚だいだいを 使った米ミルク



地域の景観や人をバックにプロモーションビデオを作成



今後のアクションプラン(案)



むらづくり活動推進研修会

地域の多様な人材，豊富な農産物，伝統的な行事・文化，自然などの資源を創意工夫して地域活性化に活用する取組や，さらにこれらの価値を高め，自主財源を生み出す取組などの事例を相互に学ぶ研修会を平成29年11月24日，鹿児島市内で開催しました。

テーマ

～事例から学ぶ地域資源を活用したむらづくり～

■ 事例から学ぶ地域資源を活用したむらづくり
地域資源を活用して，特徴あるむらづくり活動に取り組んでいる3地区の事例を紹介した。

- ① 吉利農業が持続的に発展する仕組みづくり
日置市 吉利地区公民館 迫 千穂子 氏
- ② 伝統芸能を復活し，400年の歴史を伝えるむらづくり
さつま町 中津川区むらづくり委員会 寺脇 伸治 氏
- ③ 廃校をきっかけとした宿利原地区のむらづくり
錦江町 宿利原地区公民館 宿利原 伸一 氏



■ 意見交換

むらづくり活動のポイントや，取組が継続する秘訣等について意見交換を行った。
コーディネーター

農業開発総合センター普及情報課農業専門普及指導員 四位 真由美 氏

○ 意見交換での主な意見

【吉利地区公民館】 ※ 詳細は，P17～18を参照

- ・ 吉利地区公民館は3つの区からなり，各区毎に活発な話し合い活動を行っている。
- ・ 地区公民館全体では，若者や女性などに分かれて，ワークショップを実施し，農業や地域活動に関する，様々な意見が出された。
- ・ 話し合いの場をできるだけ多く持ち，ワークショップなど，気軽に意見を出しやすい工夫をすることが必要。



熱心な話し合い活動



地区内で進むほ場整備



地域活動への
アンケート調査

【中津川区むらづくり委員会】 ※ 詳細は、P19～20を参照

- ・ 1600年代から続く、地域の伝統芸能の復活に取り組むため、地域の若手有志で実行委員会を結成し、取り組んだ。
- ・ 自主財源を確立するため、遊休農地にサツマイモを栽培し、焼酎を製造、販売。
- ・ 焼酎製造に当たっては、全戸から米1号の拠出をお願いするなど、地域全体のみんなの意識を一つにするような取組を実施。



復活した踊り



地元の青年部も復活



採れたて農産物が並ぶ



自主財源の確保に向けて子どもたちとさつまいも栽培



「なかっこ朝市」は交流の場

【宿利原地区公民館】 ※ 詳細は、P7～8を参照

- ・ 自分たちで地域を考えることは大事であるが、地元だけの意見では前に進みにくい。
- ・ 外からの意見を聞き、地元では気付かないことに気付かされる事は大事。
- ・ 宿利原地区は、不便な面もあるが、人が来る仕組みさえ作れば、若者も帰ってくる。
- ・ 宿利原小学校と地域が連携し、食育や大学生の寺子屋塾などに取り組む、特色ある教育内容で子ども達を呼び込みたい。学校は地域の拠点になる。



大学生と連携した寺子屋塾



女子大学生と連携し特産品のPR



女子大学生と連携し
特産品づくり



共同で大根を生産



地区内外の来客で賑わうライトアップイベント



大根をテーマにした
絵本の製作

吉利農業が持続的に発展するしくみづくり

吉利地区公民館（日置市）

地域の概要

構成自治会 北区, 中区, 南区(3自治会 20集落)

人口構成 (1) 総人口 1,064人 (65歳以上の割合約43%)

(2) 農業就業人口に占める65歳以上の割合 73.5%(2015年)

(3) 総世帯数 520戸 (うち農家戸数100戸)

主要作物 水稻, 甘薯, 大豆, ねぎ, 肉用牛, 酪農など

活動内容

地域資源を活用し、特産品開発や都市農村交流イベントを実施

- ・ 「(農)キタカタ」が大豆を生産し、加工グループが豆腐や味噌、豆乳などに加工し、地区で運営する直売所「吉利物産店」で販売
- ・ 企業と連携した農業体験ツアーなどによる都市農村交流の実施
- ・ 「小松帯刀公」の史跡めぐりなど地域資源を活用し外部の人を呼び込む取組
→平成25年度 共生・共働の農村(むら)づくり運動表彰を受賞!!

残された課題(H25当時)

- 農家の平均年齢73才と高齢化が進み、地域の農業を守る農業後継者の不足が懸念されていた。
- 基盤整備事業や畑地かんがい整備事業が計画されており、「地域の農業をどのようにしていくか……」みんなで話し合う必要があった。
- 農地集積を進め、地域農業の担い手を確保していく必要があった。

新たな取組をスタート!!

～ 地域農業が持続的に発展する仕組みづくり ～

- ① 話し合い活動による地域の将来ビジョン作成
担い手農家や地域の代表者、女性農業者など多様なメンバーで、地域の農業の未来について話し合い、意見を集約し、ビジョンを作成
- ② 「吉利の農業を考える会」の発足
地域の課題解決には、3区をまとめた地域全体での話し合い体制が必要だと、吉利農業が持続的に発展するための推進母体となる「吉利の農業を考える会」を発足
全体的な活動の推進と作物毎の営農推進を検討できるよう、「作物」「畜産」「しくみづくり」の3つのチームを編成し、話し合い活動を推進
- ③ 農地集積推進と担い手農家の積極的確保
地域として担い手農家を積極的に確保することが必要だと考え、中心経営体のリストアップを行い、農地集積も図り人・農地プランに位置づけた。

組織体制図

吉利地区営農推進活動体制

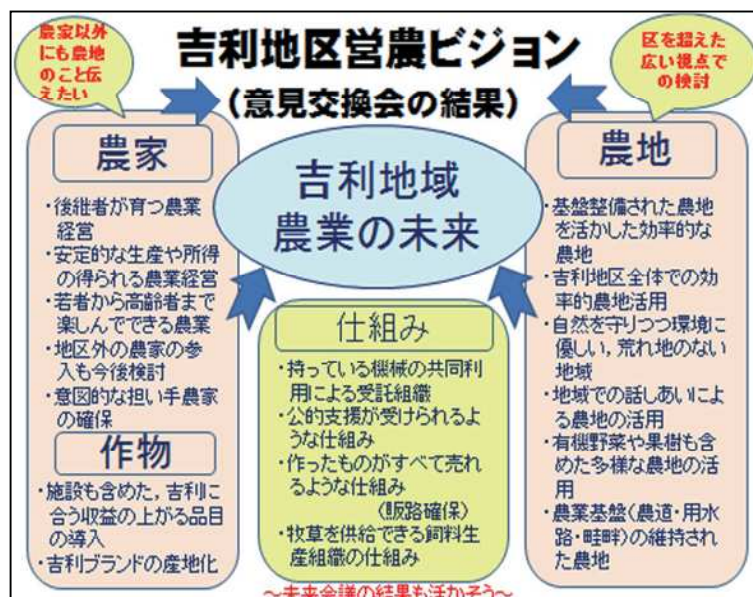


成果

- ① みんなの夢や目標, 地域の課題について語り合うことで, 地域のあり方について真剣に考え, 今後の取り組みを進める上で必要な営農ビジョンを作成することができた
- ② 吉利の農業を考える会の発足と具体的な専門3チームの編成による持続的な農業へ向けた推進体制の整備が図られた
- ③ 基盤整備や畑地かんがいの導入を契機に, 農地中間管理事業に取り組み, 認定農業者や中心経営体等の担い手への農地集積を進められ, 47ha(48%)の農地を集積

今後の課題

- ① 今年度末で閉校となる吉利小学校の跡地活用による地域内外の交流の場検討
- ② 営農ビジョンの実現を目指した生産性の高い農業への転換
 - ・積極的な担い手確保
 - ・担い手への農地の集積と作目ごとのゾーニング
 - ・地区全体での集落営農組織及び農作業受託組織等の育成
 - ・具体的な営農計画の作成と実現



伝統芸能を復活し、400年の歴史を伝えるむらづくり

なか っ かわ 中津川区むらづくり委員会（さつま町）

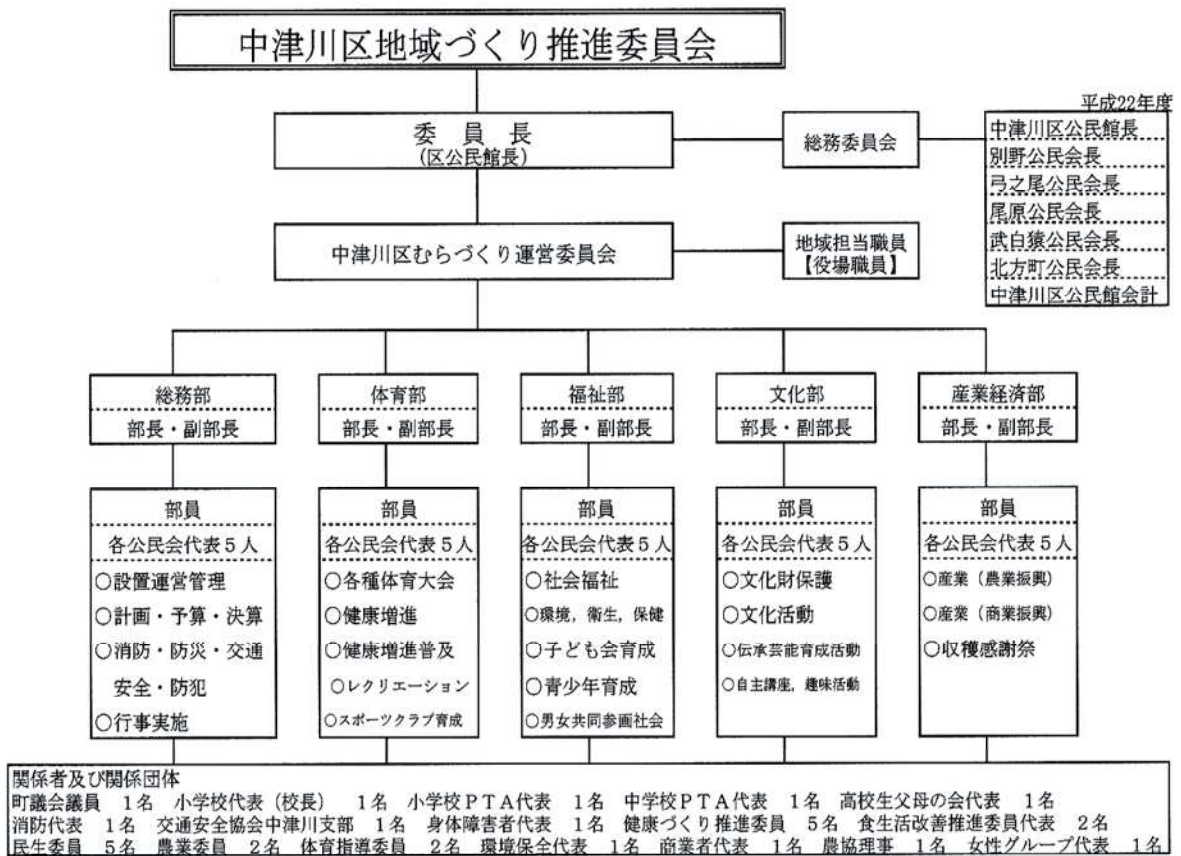
地域の概要

- 構成集落 別野, 弓之尾, 尾原, 武白猿, 北方町(5集落)
人口構成 (1)総人口 981人 (65歳以上の割合40.2%)
(2)総世帯数430戸 (うち農家戸数191戸)
主要作物 肉用牛, 水稻(主食米・種子米), 梅, トマト, いちご, 露地野菜等

活動内容

- ① 活動のきっかけ
 - ・ 集落毎に保存・継承されている郷土芸能は、毎年9月に行われる大石神社秋季大祭「金吾様踊り」で奉納
 - ・ 平成16年頃から、外部の人を呼べる祭りにしたいと地区外にもPR
 - ・ 現在は、地域の小中高生も踊りに参加
- ② 伝統芸能の継承
 - ・ 半世紀に1度大石神社へ奉納される「大念仏踊り」は、昭和30年を最後に途絶えていたものの、当時の踊り手であった「師匠」から協力を得て、48種類の踊りのうち、地割舞を平成22年、55年ぶりに復活
 - ・ 若者達も積極的に取り組み、平成25年に青年グループ「吾友会」を結成
 - ・ 平成28年には、保育園児による「稚児舞」が61年ぶりに復活、現在は、「棒打ち舞」の復活に向けて準備中
- ③ 自主財源づくりの取組
 - ・ 踊りを継続させるため、自主財源を確保しようと、平成19年から地区内の遊休農地にサツマイモ20aを栽培
 - ・ これを原料に地区独自の焼酎銘柄「金吾さあ」を製造販売して、自主財源を確保(1,000本製造, 1本2,400円で販売)
 - ・ 原料となるさつまいもだけでなく、製造過程に使われる米麴の原料も、地区住民が供給
- ④ なかっこ朝市で交流活動
 - ・ 中津川交流館前にテントを張り、農産物の直売を行っていたが平成23年に住民総出で手作りの直売所を設置
 - ・ 通常は、無人販売所として開設し、月1回は朝市を実施
 - ・ 朝市では、生産者は野菜や団子などの加工品を持ち寄り、販売するなど、地域の交流の場となっている

組織体制図



話し合い活動の経緯

- ① 公民館長，各公民会長，地域担当職員に加え5つの部会の話合いで運営
- ② 平成23年には地区の目標や将来像を示した「活性化計画～むらのかたち～」を作成し，(H27に見直し)地区の目標に基づき，むらづくり関連の行事等についても話し合い活動を基本にしながら推進

成果

- ① 伝統文化の継承では，地元の中・高校生も準備に参加し，地区の一体感の醸成につながっている
- ② 人口は微増傾向。特に若い世代のUターン者の増加に伴い，その子供達にあたる世代の人口も増

今後の取組

- ① 子供に郷土愛を育ませる取り組み
- ② 区民の健康づくりの推進
- ③ 女性グループによる農産物の加工
- ④ 400年の歴史を持つ「大念仏踊り」の復活(棒打舞)
- ⑤ 集落営農推進による地域農業の維持・発展

5 共生・協働のむらづくり活動実践地区の紹介

集落営農と連携したむらづくり

たしろ 田代自治会（日置市）

背 景

日置市の北東に位置する田代自治会は、旧郡山町に接しており、標高 523mある日置市で一番高い重平山の麓にある。

昭和 58 年度から水田の基盤整備に取り組み、水稻・茶が主に生産されている中山間地帯である。

基盤整備後にブロックローテーションで水田を耕作していたが、保全管理が主で、高齢化による遊休農地も目立ってきたことから、平成 18 年度から話し合い活動をはじめ、平成 19 年度に農用地管理改善団体が発足し、自治会内の農業者・非農家 16 人による特定農業団体「田代ビレッジサポート」を設立した。

発足当時は、約 10ha で大豆栽培を実施していたが、数年後には、15ha を超える面積となったことから、地域で話し合い、「農事組合法人田代ビレッジ」を平成 23 年 9 月に設立した。地域の水田約 50ha の半分である 26ha を耕作している。

自治会と組合法人及び水土里サークル・中山間集落協定が一体となることで、荒廃農地を出さない取組を実施している。

活 動 内 容

① 農村振興大会

昭和 50 年代から始まった農村振興運動とほぼ同時期から行われ、県内でも珍しくなった農村振興大会を今でも実施。

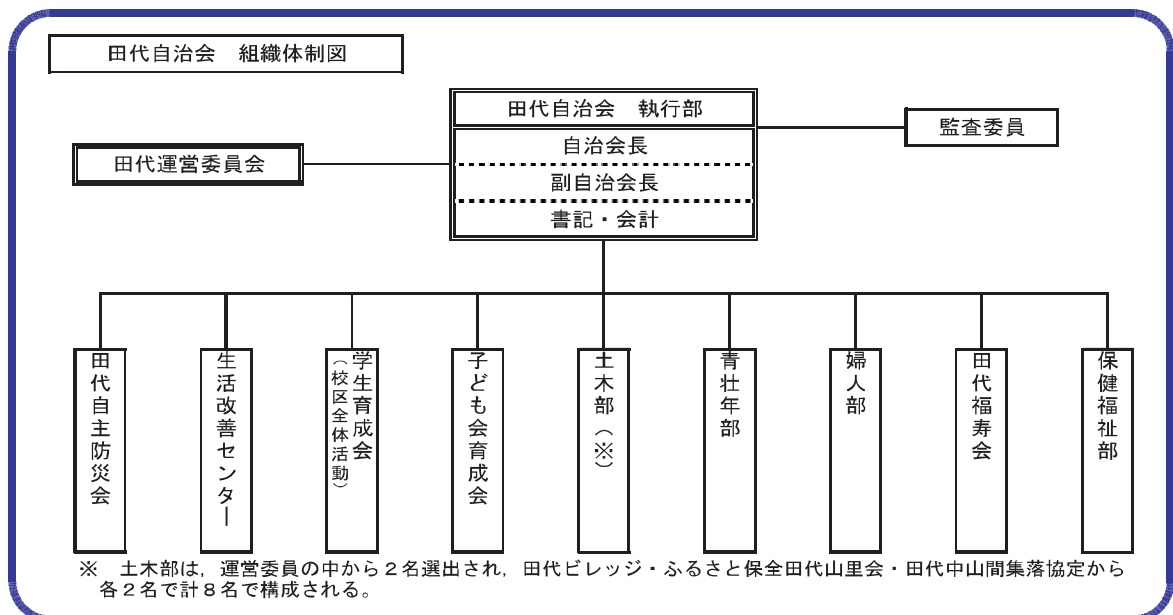
現在は、簡素化のため、自治会の花見・棒踊りと合同で実施している。

② 共同作業

年 2 回集落道や用排水路等の草払いを農家・非農家問わずみんなで実施し、地域景観美化に努めている。



作業風景



③ 夏まつり

地域の保育園と合同で夏祭りを実施し、出店やカラオケ大会など帰省客を含め、大いに盛り上がっている。また、若者が主体となって行う「デジタルマッピング」が華を添えている。



夏祭りの風景

④ 営農の取組

集落営農法人「田代ビレッジ」は、大豆 15 ha、サトイモ 3 ha、飼料用米 3 ha、WCS 2 ha、保全管理 3 ha の計約 26ha を経営しているが、条件の厳しい迫田が年々多くなり、経営的には厳しい状況である。

成 果

自治会が中心となって、各種団体と連携し、話し合い活動をすすめた結果、「田代ビレッジ」が農地の受け皿として位置づけられたことから、高齢農家や兼業農家も安心して営農を続けられるようになった。

また、法人の設立目的でもある「地域内に荒廃農地をつくらない」が実現でき、農地の荒廃農地の発生防止に多いに役立っている。

今 後 の 展 望

① 鳥獣害被害防止

迫田だけでなく平地にもイノシシ・シカが出没するようになったため、次年度から農地毎の対策ではなく、集落全体でイノシシ・シカを寄せ付けない、地域ぐるみの鳥獣害対策に取り組む。

② 田代ビレッジの経営の安定

経営の柱である大豆の収量アップ及び野菜等（さといも・ケール）への転換を行うことにより、経営の安定を図り、自治会へ還元したい。

③ 自治会住民の減少

中山間地域の大きなテーマでもある若年層の減少については、危機感を抱いているが、手だてが見いだせない状態である。

しかし、夏祭りのメインを自治会から地域外居住者の若者に移った状況を見ても、田舎暮らしを楽しんでいるかのように見える。不自由さを楽しむ「集落」を話し合いによって目指していきたい。

地 区 情 報

構成集落

田代自治会（1集落）

人口構成

(1) 総人口340人
(65歳以上の割合56%)

(2) 総世帯数150戸
(うち農家戸数115戸)

総土地面積：430.4ha

耕地面積：111.5ha

主要作物：水稻、茶、葉ねぎ、いちご
大豆、さといも

問い合わせ先

日置市農林水産課

電話番号：099（273）8870

鹿児島地域振興局農林水産部農政普及課

電話番号：099（805）7273